

第5回練馬光が丘病院跡施設活用検討会議 議事概要

日 時	令和2年7月7日(月) 午後7時～8時00分
場 所	練馬区役所本庁舎5階 庁議室
次 第	議 題 1 検討会議報告書(案)について
配付資料	・資料1 練馬光が丘病院跡施設活用検討会議報告書(案)
出席委員 (名簿記載順 ・敬称略)	瀧本 裕之、中島 徳克、高内 恒行、伊藤 大介、今井 伸、高橋 司郎、 清水 きよゑ、大内 幸司、河原 啓子、谷口 とし子
区出席者	技監(都市整備部長) 宮下 泰昌 企画部長 森田 泰子 施設管理担当部長 伊藤 良次 地域医療担当部長 佐古田 充宏 企画部企画課長 三浦 康彰 地域医療担当部医療環境整備課長 中島 祐二

1 開会

【会長】

ただいまより、第5回練馬光が丘病院跡施設活用検討会議を始める。

2 議題

【会長】

それでは次第に従い、検討会議の議題に入る。資料1 検討会議報告書(案)について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

〈資料1 説明〉

【会長】

報告書(案)は、委員会でこれまで検討してきた内容を、前回の意見も踏まえ取りまとめており、基本的に区に提出をしていくものである。

質問やご意見があればお願いします。本日が最終的な取りまとめになるため、検討会に参加した感想、あるいは今後の練馬区に対する期待でも良いため、一人ずつ発言いただければと思う。

【委員】

報告書（案）はとてもよくわかりやすい表現でまとまったと思う。議論も、できるだけ網羅されているということが、先ほどの事務局の説明でもよくわかった。

まとめた方向で事業者が応募してくることを祈るばかりである。

【委員】

地域の方のまちを愛する気持ちと、有効活用したいという理想がある中で、事業者の目線に立った貸付など、法制度もきちんとケアされたもので、バランスの取れた内容になっている。

区に考え方を出す段階の資料としては非常によくまとまっているのではないかと思う。

【委員】

会議内の意見が集約されて、わかりやすい表現でコンパクトにまとめられたと思う。

ただ一つ、跡施設活用には医療が望ましいが、このコロナ禍で病院経営が大変な状況で、タイミングを見る必要がある。新型コロナがすぐに収束するとも思えない。長い期間の中で病院として手を挙げられる事業者が現れることを切に祈って、ぜひとも報告書を出していただきたい。

【事務局】

コロナの状況を踏まえて検討すべきということは、報告書の中にも記載を入れた。状況を見ながら、進めたいと考えている。

【委員】

病院として昭和61年に生まれた建物で、数々の変遷があつて現在に至っているが、新しい練馬光が丘病院の病床事情を踏まえた上で、また地域包括ケアの一環として、地域包括ケア病床として活用されるということになれば、非常にうれしく思う。

ただ、この病院の建物そのものが、いろいろな変遷を経ており、コロナの問題も考え、医療業界は非常に苦しい立場にある。十分に体力のある民間事業者によって、しっかりと運営してもらうことが大事だと考えている。

今後、この建物がリニューアルされて、活用をされることを切に願っている。

【委員】

地域包括ケアの病院が、この跡施設で誕生する。今後の高齢化の進展を考えて、どの程度の規模が望ましいのかというのは、これからの大きな課題だと思う。

特に、団塊の世代がここ数年で後期高齢者の仲間入りをする。2年半後に新病院が開設されて、結果、この跡施設が利用されるが、今後の高齢化の進展によっては、この提案以上のものが必要になってくる可能性もゼロではない。

光が丘は、練馬区の中においても特に高齢化率が高く、団地によっては既に75歳以上が50%近くを占めているところもあるため、今後跡施設がさらに利用されることを願う。

【委員】

コロナのほかに、今、九州の方では水災害も出ている。病気や災害の多い状況のため、区の財政も、民間の事業者も、なるべく出費は抑えていきたいだろうと思う。改修には、なるべく出費を抑えて、今のままの状態のできる限り利用することが最良だと考える。

今の練馬光が丘病院の構造を見ると、1、2階と、病棟専用部分の上階とでは、部屋の構造がかなり違う。利用方法も異なってくることを考えると、できるだけ現状からあまり変わらない状態で最大限に利用することを切に願っている。

【委員】

大変簡潔で良い形の報告書になったのではないかと思っている。

ふさわしい事業者が入り、良い形の施設になってくれることを心から願っている。

そのために、ふさわしい事業者が入れるような効果的な公募の方法等が展開されて、より一層、良い形の施設になってくれることを願っている。

【委員】

おそらく利用することになる側から、思っていることを述べたい。

一つは、病院が入ってくるとしても、新しくできる練馬光が丘病院との連携は適切にしてほしい。同じ機能ではなくて、違う機能で両方ともが事業者としてやっていけるようにしていただきたい。

もう一つは、地域包括ケア病床として、地元の医師の方々との連携をとっていただき、利用者の気持ちと整合がとれる事業者が入っていただければありがたい。

また、今の建物は病院として運営していくには少し無理がきているのではないかと思っている。その跡にもう一回、同じ病院が入って、果たしてうまくやっていけるのかという心配は持っている。

費用がたくさん掛かるのであれば、結果的にはこぢんまりしたものを建てた方が、病院運営としてはいいのではないかと等も頭に置いておいてもらえれば、ありがたい。

【事務局】

報告書の中に、新病院と連携するという点も入れさせていただいている。

医療と連携することで効果が発揮できる、福祉分野、医療・福祉分野における人材育成に資する機能も望ましいという形にさせていただいている。こういったものも十分踏まえて、皆さんが期待されているような事業者を選定できるよう努めていきたい。

【委員】

分かりやすくまとめていただいた。目の前で病院の流れを確認させていただいたが、新病院が令和4年から開院になる。それから引越しするとなると、すぐに業者が変わってやったとしても1年ぐらいかかってしまう。せっかくここまでまとめていただいたので、スムーズに連携ができる形で、一日も早くこの建物が有効的に活用されることを願っている。

【会長】

ひとつおとり、委員から意見をいただいた。区の方で、それぞれについて、対応を進めていただきたい。

報告書の案については、成案化されるが、今後の区の取組の状況について、お聞かせいただきたい。

【事務局】

報告書（案）について、これでご了承いただいたと認識している。
それを踏まえ、成案化し、区長に報告させていただく予定である。

【会長】

それでは、今後の予定について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

今後の予定について、説明させていただく。
成案化した報告書を、会長から区長宛に直接お渡ししていただく。
その後、報告書を踏まえ区の活用計画の素案を策定し、パブリックコメント（区民意見反映制度）にてご意見をいただいた後、成案化し、事業者の公募という流れで考えている。

【委員】

いつ頃かというスケジュールをお聞かせいただきたい。

【事務局】

今月末頃に活用計画の素案を公表し、区民意見反映制度（パブリックコメント）でご意見を頂戴できればと考えている。

その後、議会に報告をさせていただいて、9月には活用計画ということで成案化したい。そこから、1か月半から2か月ぐらいの期間で活用事業者を公募したいと考えている。

活用事業者選定については、今の予定では、1月にはできるかと考えている。

ただ、コロナの関係もあるため、考慮しながら進める予定である。

【会長】

本日取りまとめられた報告書については、練馬区においてこれを踏まえ、練馬光が丘病院跡施設を有効に活用されることを心からお祈りし、この検討会議を終了したい。

【企画部長】

会長のご挨拶をいただき、私共の方からもお礼の言葉を述べさせていただきたい。

検討会議は2月から始まったが新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、1回は、会議が対面ではなく、書面による開催とさせていただき、取りまとめに当たっては、会長、副会長にも、多大なお力添えをいただいた。委員の皆様からも、書面での開催ということ

であったが、多岐にわたる、様々な示唆に富むご提言をいただき、最終的に、提言という形でおまとめいただき、非常にありがたく思っている。

現地の視察もできない中ではあったが、個人で見に行っていたなど、委員の皆様から、それぞれの視点で貴重なご意見をいただいた。

区としても、速やかに有効活用できるように、今後、精一杯取り組んでいきたいと思っている。あらためて感謝申し上げる。

【会長】

それでは、委員の皆様方、それから練馬区に御礼を申し上げ、終了させていただく。